HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

| | |
|---|---|
| タイトル | 中国におけるエコツーリズムの現状 ― 龍勝各族自治県を事例として |
| 著者 | 孟，浩宇；Meng，Haoyu |
| 引用 | 北海学園大学大学院経済学研究科　研究年報(24)：1-23 |
| 発行日 | 2024-03-31 |

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

〈論文〉

# 中国におけるエコツーリズムの現状

## ── 龍勝各族自治県を事例として

孟（モウ）　浩宇（コウウ）

目　次

第1章　研究の目的・背景
1.1　研究背景
1.2　研究目的と方法
第2章　中国の農村振興戦略
2.1　政策支持
2.2　発展経緯
⑴　初期 1949-1978
⑵　発展期 1978-2012
⑶　推進期 2012-
2.3　産業発展の必要性
2.4　農村振興と観光業
2.5　農村発展の困難点
第3章　中国の農村エコツーリズム
3.1　先行研究
3.2　定義
3.3　農村エコツーリズムの多様性
⑴　農家楽
⑵　レジャー農業観光
⑶　農村テーマ観光
⑷　農旅融合
⑸　農村康養観光
⑹「インターネット＋」農村観光
3.4　現状分析
第4章　農村エコツーリズムの関連政策
4.1　発展経緯
⑴　2006 以前
⑵　初期 2006-2010
⑶　発展期 2011-2015
⑷　推進期 2016-
4.2　農村現代化
4.3　まとめ
第5章　龍勝各族自治県の現状
5.1　概要
5.2　人口
5.3　生態系貧困扶助
第6章　龍勝各族自治県のエコツーリズム
6.1　観光産業の発展
6.2　エコツーリズムの推進
⑴　龍脊棚田
⑵　大寨村
⑶　馬海村
6.3　問題点
⑴　民俗文化流失
⑵　経済発展
⑶　環境意識
⑷　エコツーリズム資源の開発と保護
6.4　発展に対する提案
⑴　民俗文化
⑵　エコロジー教育
⑶　政策支援
⑷　バランスの取れた開発と保護
⑸　観光による貧困緩和の継続

終わりに
研究の課題と展望
引用文献

## 第1章　研究の目的・背景

### 1.1　研究背景

中国の経済政策である改革開放は、「先に豊かになれる者たちを富ませ、落伍した者たちを助ける」という考えで実行された。近年、中国は目覚ましい経済成長を遂げる一方で、農村部は 21 世紀に入っても発展から取り残され、所得格差が拡大し、都市と農村の鮮明な二重経済構造が形成された。中国経済の全体的な成長に伴って、二重経済構造という矛盾を是正する必要が生じたことから、中央政府は多くの試みを行っており、その一つが農村部における観光開発である。農村部では社会の疲弊と経済の衰退による格差拡大や環境破壊が顕在化している（劉 2013）。農民の貧困状態、農業の低生産性、農村の非合理性をいう「三農問題」は、中国の地域社会や経済の持続的発展への大きな阻害要因になっている（張

2010)。2012年11月に、中国政府は貧困格差を改善するため、2020年までの小康社会の全面的建設という目標を設定し、貧困撲滅に取り組んできた。そして、2020年中に貧困脱却を達成したと宣言した。しかし、貧困脱却は終点ではない。「共同富裕」という目標の実現に向けて都市と農村の格差縮小に取り組む必要がある。

中国の農村は豊かな自然、伝統文化、技術、景観などの資源に恵まれている。これらの多くは長い歴史に支えられ、地域住民の日常生活や経済活動によって構築されてきたものであり、中国固有の資源として高い経済的価値を有している。近年、政府の導入した新業態のエコツーリズムは、著しい発展を見せている。農村エコツーリズム（中国では「郷村生態旅遊」と呼ぶ）は持続可能な発展を追求し、生態環境の維持と改善を主要な前提としている。

### 1.2　研究目的と方法

孟（2023）では中国のエコツーリズムの現状、定義について明らかにしたが、今回は依然として農村部エコツーリズムが課題となっている。そこで今回は龍勝県の実態を対象として、農村部エコツーリズムの定義、特徴、発展経緯などを明らかにする。

現在の中国ではエコツーリズムの定義と研究方向は多岐にわたる。そのため、エコツーリズムの発展状況を研究し、課題の分析を行い、一連の解決策を提供することは、一定の参考意義があると思われる。具体的な研究内容として、中国の農村エコツーリズムの定義・特徴を纏める。本稿の研究対象は、中国の農村貧困対策である「郷村生態旅遊」を展開した龍勝県である。龍勝県において、エコツーリズムの現状や概要、地域の人口、経済状況、貧困問題といった諸条件がエコツーリズムの発展にどのように影響しているかを明らかにする。さらに、龍勝の観光産業とエコツーリズムの導入・建設、それによる環境の変化と貧困問題の改善について探求し、農村エコツーリズムの問題点と解決策について提案する。

中国には広大な農村地域があり、そこには幅広い発展基盤がある。同時に、農村エコツーリズムは市場発展の余地が大きく、この分野が発展することにより、経済や生態環境などに積極的な影響を与えるものと思われる。しかし、農村観光の発展方法というのは、他地域の例をそのまま適用できるものではない。地域ごとにそれぞれ異なる特徴があるため、持続可能な発展を実現するためには、各地域の実情を十分に検討し、その実情に合わせた発展モデルを構築する必要がある。

## 第2章　中国の農村振興戦略

本章では、中国の農村振興戦略の発展経緯、産業発展の現状について述べる。

農村振興戦略では、農村の優先的発展を貫き、全体的な発展に基づき、都市・農村融合発展の体制・仕組みと政策体系を確立して充実させ、農村の現代化推進を加速することが強調されている。

### 2.1　政策支持

2017年10月18日、習近平は十九大報告において農村振興戦略を提唱し、農村振興には政治、経済、社会、文化、生態の5つの側面が含まれることを示した。産業は農村振興発展における前提条件であり、農村産業の総合的な優位性に注目し、産業チェーンと産業間統合の観点から発展させていく必要がある（朱2018)。農村振興戦略は、農村の全体的な発展が重視されている。ここで鍵となっているのは、農村の発展と、農民の福祉である。農村振興戦略では、生態文明建設の重要性と、人々の生活に対するニーズ向上との本質的な結びつきが強調されている（陳2018)。

2021年に制定された「郷村振興促進法」により、農村振興の実施には法的保障が与えられた。産業は常に、農村振興戦略の実施において不可欠である。中央政府は、産業発展の方向性を示すと同時に、生態資源の保護を強調した。「郷村振興促進法」では、中央政府は農村振興戦略のリーダーとして農村の発展をより良い方向に導く責任があると直接的に述べられている。中央政府は、農村の自然資源と人的資源を活用し、産業統合に基づいた特色ある産業の発展を行うことを提唱した。近年、農村観光は多くの観光客を農村に誘致するとともに、関連産業の発展を牽引し、村民の雇用や生態環境の保護などに積極的な役割を果たしており、観光は農村振興戦略の重要な手段となっている（張2018)。中国は、基本的な国情において、中国の農村は衰退してはならないと規定している（陳2018)。農村の発展には強い重要性がある。過去を振り返り、総括することで、農村振興戦略に対する理解を深めることができる。

### 2.2　発展経緯

#### (1)　初期1949-1978

建国以来、中国共産党は農業の復権を経済レベルでの第一目標としてきた。1950年の土地法の公布により、当時の現状に沿った生産力の解放が行われた。1953年、156件の大型建設プロジェクトを中心とした「一五」計画が始まり、工業化戦略が始まった。この過程では、当時の国際政治の影響もあり、中国は工業化蓄積のために多くの外国資本を獲得することが困難であった。したがって当時の中国では、農業を通じた工業育成政策が選択され、計画経済体制の下で農業の余剰分を工業に移転し、農業から工業への蓄積提供を中心とした都市と農村

の関係が形成された。そのため、工業と農業、都市と農村の発展は、不均衡なものとなった。農村と都市に対しては二元的な政策がとられ、農業に対する国家財政支出は少なく、この頃の農業は与られることよりも奪われることの方が多いという状況にあった。

⑵　発展期 1978-2012

1980 年代初頭、農村改革の主な要素のひとつに、家庭聯産承包責任制の実施があった。この政策とは、中国の農家が政府から一定量の生産を請け負い、それ以上生産された農作物は、個々の農家が自由に販売できるようにした制度。これによって農民は余剰分を請求する権利を与えられ、この制度により、農民は生産開発と拡大へ意欲を高めた。農業商品化は農業近代化の出発点であり、1978 年以前の計画経済は農民による農村経済発展の積極性を抑制するものであったが、その後の農村改革では市場メカニズムが導入された。市場メカニズムは、主に以下の二つの側面で具体化された。一つは流通活性化と農産品市場取引の回復である。もう一つは、価格交渉と市場調整範囲を拡大し、統一買付販売制度の下にある農産物の種類と割合を徐々に減らしていくことであった。農民は、小規模農家と大市場の接触という困難に直面し、農業の産業化経営を選択することになった。農業生産における前・中・後のステップを結びつけ、一体的な運営を行おうとした場所もあり、これは集団型と私営型に大別される。とはいえ、工業と農業、都市と農村という二重構造は変わらず、農村の発展は都市に大きく遅れを取っており、「三農問題」が浮上した。

21 世紀に入り、中国は工業化中期段階に突入した。科学発展観というイデオロギー指導の下、農村に対する政策も変化し始め、「三農問題」が重要視されるようになった。2004 年から 2012 年までに中央政府が主に注目していたのは、農業、農村のインフラ建設・開発、農民の所得向上に関する問題であったが、2013 年以降は農業農村の近代化建設を重視するようになった。農村建設の推進に伴い、工業化都市化から農村が取り残されることは減ったが、食糧増産、農村インフラ整備、社会保障の充実などに進展がもたらされた。しかし、農村の不健全な生産管理メカニズムや、発展する能力の弱さという問題は明らかに見て取れた。

⑶　推進期 2012-

1979 年から 2012 年までにかけて中国は年率 9.8％の GDP 急成長を達成したが、このような急速な発展は、貧富格差の拡大と環境汚染などの問題を引き起こした。中央政府は「創新、協調、緑色、開放、共享発展」という新理念を打ち出した。新たな発展概念により、農村が内包するものはさらに豊かになり、農村が持つ発展余地はさらに大きくなった（鄭 2018）。

発展の経過からは、中国経済の発展により、農村発展の道筋と政策の選択が決定されていたことが読み取れる。農村の発展に影響を与えた主な要因の一つは生産力であり、もう一つは中国が計画経済体制から市場経済体制に転換し、農民が制限を突破したことである。中国の生産性水準が上昇し続けるにつれ、都市と農村の間にあった二重構造は徐々に解決され、農村と都市は一体化した発展に向かいつつあった。しかし、発展における不均衡問題は未だ際立っており、国家の支援が不十分であったり、都市農村間の流動性が乏しかったりといった問題が挙げられる（梁 2019）。したがって、農村振興戦略の実施に当たっては、上記のような矛盾した発展を必ずや解決しなくてはならない。

## 2.3　産業発展の必要性

農村での問題として、産業発展における特徴の欠如、ブランディングの弱さ、近代化されていない、産業統合の程度が低いなどの事柄が挙げられる（李・鄧 2018）。国民経済システムには農村産業に関する直接的な統計がないため、農村産業の規模や構造に関するデータが不十分である（李 2018）。各地の産業振興過程には 2 つの問題が浮上しており、1 つは規模拡大に対する過度な追求、もう 1 つは盲目的な発展、マーケティングの欠如、産業の同質化である（朱 2019）。農村の発展は不均衡かつ不十分であり、農民の所得増加は顕著でありながらも、そこには明らかな構造的矛盾が存在する（屈・矯 2020）。農村振興の実施は、経済発展において不可欠な存在である。農村振興と観光は相互依存関係にあり、経済問題の解決や、民俗伝承、インフラ建設、観光の全面的発展を促進することができる（盧・馬 2019）。観光の発展を通じて、貧困地域の改革や、地域活性化を行うことが可能であり、これは農村に持続可能な発展をもたらす（朱 2020）。産業振興においては、経済の転換と向上を推進することが重要であり、総合的な農業効率は競争力の基礎である（葉 2018）。産業振興は、産業の相互統合と、製品構造の向上に基づくべきである。食料供給産業は既に、食用作物、商品作物、飼料作物などと相互的に統合された関係にあり、これらへ効率的に転換することもできる。しかし、食用作物や商品作物の恩恵は限定的なものである。人々の所得が増加するにつれ、食料消費支出の割合は減少し、非食料消費は増加し続ける。したがって、農村では他の産業を拡大する必要がある。同時に、産業の振興は、環境に優しい発展形態を保つべきである。生態環境を保護することも、農村の産業発展モデルにとって客観的に必要とされるニーズである（洪 2018）。近年、第一次産業には「生産は増えても所得は増えない」という現象が見られ、これにより農民の仕事の意欲は下

がっている。このことも第一次産業だけに頼って農民の所得を増やすことには限界があることを示している。

改革開放以来、中国の経済構造は著しい変化を遂げた。経済構造において農業が占める割合は急速に低下し、工業とサービス業の割合が上昇した。その理由は、一方では経済発展の法則に基づき、第二次産業と第三次産業が、経済再編と産業高度化に向かうようになったことが挙げられる。経済発展の水準が上がれば、必然的に第二次産業と第三次産業の割合は上がる。他方、農村が都市から発展に遅れをとっており、農業における工業化の程度が低く、その結果、農業生産と生産額の効率性が低いという点を無視してはならない。産業振興によって、中国における主な矛盾問題を解決につなげることができる。都市が改革開放のメリットを得る一方で、農村の大部分は生活水準の面で遅れをとっており、生活環境やインフラの改善が急務となっている。農民は農村の将来と発展を憂慮し、より良い生活への願望を次第に失っていくだろう。2021 年、中国は「全面小康計画」を完成させ、現行の基準で 9,899 万人の農村貧困層が、貧困状態から脱却するという驚くべき成果が達成された。しかし、長期的な視点に立てば、農民は衣食に事欠かないことだけに満足するべきではない。現状では「三農問題」は未だに中国国家経済の欠点として残っている。それゆえ、農村振興戦略において、産業の発展は非常に重要なポイントとなっている。

### 2.4　農村振興と観光業

農村観光の発展は、農村の経済発展を促進すると同時に、都市との格差を縮小し、経済統合実現への道にもなる。2017 年に中国政府の発布した中央一号文件では、農村観光の発展について言及されており、その建設に対して、国家、社会企業、各種産業チェーン、環境保護などからの支援が提供されることが述べられた。その後、国家発展改革委員会（NDRC）および関連各部門は、「農村観光の発展と質向上のため行動法案」を共同で発表した。この法案の目的は、農村観光の急速な発展実現ならびに観光産業による国民消費および生活向上にある。現段階では、農村観光は幅広い範囲を持つことや、観光客が多いこと、また、コンテンツが多様といった特徴を持っており、農村における産業構造の調整、余剰労働力に対する職の提供、経済建設の改善、および二重経済構造の改善などに役立っている。

1990 年代初頭、中国において観光による貧困解消の概念が提唱されてから、西部地域や貧困地域での実践が開始された。1990 年から現在に至るまでに、豊富な経験が重ねられ、2021 年時点で、中国では農村観光の重点村が 1199 カ所形成され、2 万 2600 の貧困村が貧困から脱却することができた（孫 2021）。これまで中国の研究者は、農村観光の概念や定義について、多くの異なる見解を示してきた。農村観光とは、農業を多角的なビジネスに転換する最良の形態である。空間的な観点から見ると、中国の農村部においては農業生産の割合が大きく、この点において都市とは相対的である（劉・王 2006）。また、一部の研究者は、天然資源の保護と、農村の合理的な発展についても強調している。様々な研究者の意見を比較すると、それらには以下のような共通点がみられる。第一に市場のニーズ、第二に地域経済の活性化、第三に環境保護など、これらを大切にするべきという点において共通している。筆者は、農村観光とは、農村で行われ、その土地にある自然景観と民俗伝承によって注目を集め、観光客のニーズを満たし、環境保護と経済発展を求める観光形態であると考える。

### 2.5　農村発展の困難点

中国社会科学院農村発展研究所と中国社会科学出版社は 2018 年 7 月 25 日、北京で「中国農村発展報告」(2018) の発表会および中国農村全面振興高層フォーラムを共同で催した。報告書の総報告によれば、改革開放以来、都市化の進展に伴い、農村の発展は思想観念、国家農業支援システムの脆弱性、都市偏向政策の継続などの要因により、3 つの主要なジレンマに直面している。

まず、現代農業の発展が遅れ、都市と農村の経済構造の転換が遅れていることが挙げられる。農業の現代化は都市化や工業化よりも進んでおらず、農業増加値の割合が他国に比べて低下している。これにより、都市と農村の経済構造が依然として農村の発展を妨げる主な障害となっている。次に、農村の環境問題が深刻で、高齢化や空心化が進行していると指摘された。農業の汚染や農薬の使用が問題視され、農村の生活環境が改善されていないことが懸念されている。また、都市への労働力流出により、高齢化や「空心化」などの課題が増大している。最後に、農業労働力の人的資本が低く、増収が難しいという問題が浮き彫りになった。公共サービスの不足により、農民の教育水準が低いことが指摘され、これが農業の現代化と経済変革の障害となっているとされている。

そして、現在、農村経済発展が直面している主なジレンマは二つの方面にまとめることができる。まず、一部の人は長い間誤区で工業と都市文明が現代文明の発展方向であると考えており、農業を現代文明に合わない時代遅れの形態とみなしている。これは農業に対する一部の無視を招き、農業の発展を苦境に陥れた。実は、農業文明は人類文明の母体であり、基本的な生存資料と方式を提供し、他の文明の基礎である。そのため、農業の発展は工業と都市文明と同期して推進しなければならず、互いに排斥するのではない。

次に、中国は 1950 年代から 60 年代にかけてソ連の集

団農場に倣い、人民公社を大いに推進し、農業を衰退させた。今日、一部の人はまたアメリカに倣う大規模な経営を提唱しているが、中国の農業は実際には人口密集した人が多い少人数型で、盲目的にアメリカに倣うモデルには向いていない。土地の規模化経営は適度でなければならず、そうでなければ利益が低下する。また、中国農業は現実の国情を考慮しなければならず、農民の意志に反してはならず、経済法則に反してはならず、中国の実情に反してはならない。そのため、中国の特色ある土地を適度に規模化する農業現代化の道を歩まなければならない。

これらの問題を解決するためには、産業レイアウト、組織、サービス、工場化生産に適した種養業などの面で農業の規模化を推進する必要がある。同時に、農地経営の参入と退出制度を確立し、土地の規模化経営が適度な範囲内で行われることを保証する。政府は農民の選択を尊重すべきであり、農業経営方式の選択に無理に介入してはならない。全体的に、農業の発展には中国の特色が必要であり、農業文明が工業文明と都市文明と同期して発展できるようにするためには、現代の農業経験を参考にしながら、伝統的な農業の精華を残し、発揚する必要がある。

## 第3章　中国の農村エコツーリズム

### 3.1　先行研究

中国における農村ツーリズムの研究は、一般的にエコツーリズムと結び付けられており、両者の概念には大きな重なりがみられる。多くの外国の研究者は、農村ツーリズムは従来の観光とは異なっていると論じ、人々は商業的な目的だけでなく、精神的リフレッシュならびに文化保護のために参加していると述べた（Medina, L. K. 2003）。Islam と Carlsen は、Beliz 近郊にある人口の少ない村について研究を行った。その村では、マヤ文化に好奇心を抱く観光客に向けて、地元住民は伝統工芸品を生産し、マヤ文化の伝統を復元させた（Faridul Islam, Jack Carlsen 2012）。また、Islam と Carlsen は農村エコツーリズムと貧困救済を合わせて研究し、地方政府のさまざまな政策、市民社会組織からの財政支援、伝統的農業の役割、人材の数が農村観光開発へ影響を及ぼすことを明らかにした（Faridul Islam, Jack Carlsen 2012）。Park は、様々な文化が農村エコツーリズムの発展に重要な影響を与えると論じた（Park D. B 2012）。

農村エコツーリズムに関して、中国の研究者は多様な研究を行っている。まず、都市化を加速させ、雇用の転換を図るための研究が挙げられる。様々な文化の融合を促進することで、地域の特色を発展させることができる。観光産業は雇用機会が多く、入職への敷居が低いため、地元民の雇用を保障し、農村における余剰労働力問題を解決することができる（施 2020）。農村エコツーリズムの発展は、無形文化遺産の保護に繋がり、無形文化遺産の継承にとって有利なものとなる（李 2018）。農村エコツーリズムは、文化交流に場を提供し、様々な地域、国籍、信仰、生活習慣の人々が理解を深め、文化の間にある重要なコミュニケーション手段となる（馬 2020）。次に、農村エコツーリズム発展による環境への悪影響に関する研究である。環境の開発と保護という 2 つの側面は経済発展の過程において両立が難しく、農村エコツーリズムの発展においても避けられない（劉 2018）。一部の観光プロジェクトは現地の有効資源配分に大きな影響を及ぼし、観光地の自然環境に多かれ少なかれ影響を与える（王 2019）。農村エコツーリズムと都市化、それぞれの過程には、開発を重視するあまりに保護を軽視しがちという似た現象がみられる。これはすなわち、地方政府が短期的な利益を重視するあまり、持続可能な発展をおろそかにするということである。中国各地にみられる理にそぐわない開発により、観光資源が浪費され、損害を被るという深刻な問題が起きている。多くの地域では環境収容力を超えた開発が行われており、時間の経過とともに観光資源は不足または枯渇していくだろう（張 2019）。最後に、農村エコツーリズムの発展過程では、その他にも多くの問題が生じる。発展に影響を与える主な要因として、深刻な資金不足と不完全な管理が挙げられる（郭 2018）。少数民族地域は過疎化と同質化の問題を抱えており、どこの地域であっても似たりよったりの状況になっていくものと予想される（王 2019）。

### 3.2　定義

農村エコツーリズムは、農村地域における持続可能な観光活動を指す。これは、自然環境や地元の文化に焦点を当て、観光客が地元の生活や自然環境と触れ合い、学ぶことを目的としており、観光客は、農村地域での滞在を通じて、自然と触れ合ったり、地元の伝統や文化を学んだりすることができる。伝統的な観光産業と比較して、エコツーリズムはより持続可能な形態を追求する。環境への影響を最小限に抑えつつ、地元の経済や文化を活性化させることが重視される。農村エコツーリズムでは、地元の農産物や手工業品を観光客に提供することで、地元経済に寄与し、地元のコミュニティにも利益をもたらすことができる。

農村エコツーリズムの発展には複数の要因が寄与している。現代の観光客が環境に対する高い関心を抱いていることが一因であり、エコツーリズムはその需要に応えて急速に発展しており、地元の住民やコミュニティがエコツーリズムに積極的に参加し、協力することが不可欠である。農村エコツーリズムは持続可能な開発原則に基

づいて計画され、実施されることが求められ、地方自治体や国がエコツーリズムの発展を支援し、適切な規制を提供することが促進要因となり、持続可能で地域に利益をもたらす観光活動の展開に寄与している。

### 3.3　農村エコツーリズムの多様性

農村エコツーリズム（農山漁村）は、農村観光とエコツーリズムの基礎から生じた、農村観光とエコツーリズムの有機的な結合である（韓 2019）。農村エコツーリズムは、農村独特の自然風景、民俗文化、農業生産などを観光資源とした観光活動であり、生態環境保護と持続可能な開発が重視されている。地元住民の利益も重視されており、人と自然の調和と共生が実現される。中国においてエコツーリズム観光地は郊外と農村（農山漁村）に多く分布しており、農村はエコツーリズムにおいて極めて重要な存在である。

農村経済は、農業、農村工業と手工業、交通運送業、商業、信用、生産と生活サービスなど、さまざまな部門の経済活動とそれに伴う経済関係に関連している。農村経済構造は、農、林、牧畜、漁、工、商、交通、建築、金融、文教、各サービス業界などの構成状況と相互関係を指す。これには、生産構造、経済組織構造、技術構造、流通構造、分配構造、消費構造など、さまざまなレベルの要素が含まれている。異なる種類の農村経済構造は、それぞれ異なる特徴と形成発展の法則を持ち、社会経済条件、自然資源条件、人口状況、社会の需要などのさまざまな要因に影響を受ける。合理的な農業経済構造を築くことは、自然資源と経済資源を十分に利用し、労働生産性と資金利用率を向上させ、農村経済の総合的で調和のとれた発展を促進するのに役立つ。

中国の農村エコツーリズムは 1980 年代に始まった（安 2018）。現在、農村エコツーリズムの形は多様化しており、農家楽、レジャー農業観光、農村テーマ観光、農旅融合、農村康養観光、「インターネット＋」農村観光の 6 種に大別される（彭 2022）。各モデルの間には共通点が存在するが、農村エコツーリズムの現状に対して全面的な理解を得ることができるだろう。そして、本文に孟（2023）で整理の定義を行ったので、紹介する。

#### ⑴　農家楽

農家楽は、農村エコツーリズムの初期的な形態である。初期の農家楽は、自宅の庭が経営の場とされ、経営者は現地での取材を通して、生産された農産物から農家料理を仕上げ、それによって観光客と収益を獲得する。

#### ⑵　レジャー農業観光

レジャー農業観光の概念は、1989 年に台湾大学が開催したレジャー農業発展シンポジウムにおいて提唱された（範 2011）。レジャー農業とは、レジャー、観光、摘み取り、農作業体験などの活動を観光客に提供する新型産業を指す（袁 2006）。レジャー農業は「農業＋観光」によって構成されるモデルであり、伝統的な農業の延長と開拓をベースとし、農業はそれを基礎に発展する（李 2017）。レジャー農業観光は、農村生態資源の開発を通じて、農業生産、農産物加工、サービスを結びつけ、農業の産業チェーンを延長し、農村の第一～三次産業の融合発展を促すことに有効なルートである。レジャー農業観光の発展モデルは、分類基準によって区分される。自然資源による伝統観光型では、農家楽、摘み取り、農業観光、農業科学普及、農作業体験などの農村生態体験ツアーが提供され、人文資源体験型では古建築、民俗、歴史文化などの文化資源が提供される。

数年の発展を経て、中国のレジャー農業観光は単一的な観光に留まらず、科学普及、民俗、文化、生態などの分野へと発展し、分布範囲多くの地域へ広がり始めた。2019 年末までに、全国のレジャー農場、観光農園など各種類のレジャー農業経営主体は 30 万軒に達しており、1200 万人の就業を牽引し、利益を受けた農家は 800 万戸以上に達した。観光者数は 2012 年の 7.2 億人から 2019 年の 32.0 億人へと増加し、2012 年の観光収入は 2,400 億元であり、2019 年には 8,500 億元に達した。新型コロナウイルス感染症の影響により 2020 年 1 ～ 8 月の観光者数は 12.0 億人、観光収入は 5,925 億元と、観光者数と観光収入はやや低下を見せている。

#### ⑶　農村テーマ観光

テーマ観光とは、消費者と製品の視点から見て、目立った特色を頼りにして行う観光活動のことを指す。テーマ観光は、生活レベルの向上と需要の多元化という基礎上に生まれたもので、一般的な旅行とは異なる鮮明な特色を持つ。テーマは多様化しており、その中には戦争、歴史、療養、研究・学習などがある。

#### ⑷　農旅融合

農業と観光が結びつく過程において、農業と観光業は互いに優れた点の相互補完を行い、その境界は徐々に曖昧なものになりつつある（朱 2016）。観光業は農村資源を利用して観光客を引きつけ、既存の資源を消費可能な観光資源に変え、他方、観光業のサポートの下、農村資源の付加価値は向上し、最終的には融合発展が実現する。

観光業は総合的な産業であり、農業との相互浸透が容易であり、農村資源とのつながりによって共生的な発展を実現することが可能である。観光業の立場から見ると、これは市場需要に基づいた革新であり、人々は都市生活とストレスから離脱したいという新たなニーズを観光業へ提示した。農村の立場から見れば、伝統的な農業

生産方式は単一的であり、農産物の付加価値は主に販売に集中しており、伝統的な農業発展方式は既に社会発展への適応が難しくなりつつある。農旅融合は、農業の現代化と産業のアップグレードを促し、農村住民の収入増加ならびに農村環境改善に役立つ。

### ⑸　農村康養観光

農村康養休暇は、最初は欧米国家に現れ、その前身は健康旅行であった。康養観光とは健康旅行と養生旅行の総合体である（薛 2011）。養生旅行は体の健康の維持や強化を重視し、病気の予防や健康維持を目的とした旅行活動である。康養観光には四つの特徴がみられる。①健康をテーマとした、養成理念、生態資源と観光産業の融合。②観光、休養、養老などのプロジェクトを含み、観光客の滞在時間が長い。③良好な基礎が必要で、自然条件への要求が高く、一定の排他性を持つ（任 2016）④専門性が高く、医学、技術、法律など関連方面へのサポートを要する。

中国の康養観光では、森林、農産物、運動、漢方薬材、伝統文化などの要素が重視されている。2020 年、中国の 60 歳以上の人口数は 2 、6 億人であり、総人口の 18、7 %を占めている。2010 年比 8,637 万人増で、5 、4 %上昇しており、中国は既に高齢化社会に入っている。高齢者以外に、若者も健康養生に関心を持つようになり、これらの層はいずれも康養観光に巨大な市場を提供するようになった。

### ⑹「インターネット＋」農村観光

「インターネット＋」農村観光とは、ビッグデータ（bigdata）、インターネット、モノのインターネット（Internet of Things、IoT）などの情報ネットワーク技術を通じて、観光サービス、管理、マーケティング、体験などの段階的スマート化の実現を指す（呂 2015）。スマート観光は観光と現代科学技術の融合物であり、高レベルな観光情報化発展の形態である（畢 2014）。従来型の観光業はそれぞれ独立的なモデルとなっており、観光地の間にはつながりがなく、観光客はリアルタイムの観光情報を得ることができなかった。それに加え、観光地と企業もフィードバックルートを通じた観光客のニーズ把握ができなかった。情報化建設の強化を通して、情報のリアルタイム共有、市場の需要と供給不適合の緩和などを実現し、農村エコツーリズムを「インターネット＋」観光の方向へと発展させる。

「インターネット＋」農村観光は、観光の「前」「中」「後」という 3 つの段階においてそれぞれ重要な役割を果たしている。

観光前：農村観光地の分布は分散しており、交通や宿泊などの関連情報の獲得が困難である。そこで、観光地の資源統合、サービスシステム構築により、観光客へ関連情報を示し、個性的な観光ルートを提供する。そのほかにも、AR 技術やパノラマスキャンモデリングなどの技術によって、観光客を引きつけ、景色や民俗などをインターネットから宣伝する。リアルタイム観測などの情報技術を通じて、観光人数を把握し、観光地の収容力によって観光客を分流させ、周辺観光地の利用率を高めることも可能となる。

観光中：人工知能技術により観光客に音声ガイド、オンライン観光、オンラインチケット購入、顔認証入園などのサービスを提供し、観光客の体験を豊かにする。

観光後：入場券、消費状況など各種データを統合し、性別、学歴、客源地、消費の好みなどの情報によって観光客を分析し、観光地の改善に役立てる。

「農村振興戦略」は農村エコツーリズムに政策的な支持を提供した。2019 年、「国務院農村の産業振興を促進する指導意見」が公布され、農村観光業の最適化と重点村の培養が目標とされた。2020 年、農業農村部は「全国農村産業発展計画（2020-2035 年）」を発行し、「農村観光業を全面的にアップグレードし、農村の機能と価値を発掘し、サービスレベルを高め、2025 年には年間観光客数 40 億人以上、経営収入 1.2 億元以上」との目標が示された。現在は、農村エコツーリズムは急速な発展を見せており、貧困問題改善の重要な手段となっている。

## 3.4　現状分析

以上の先行研究から、中央政府の政策文書であれ、農村振興に関する学術研究であれ、農村における観光産業の発展に注目していることがわかる。農村振興計画により、農村には大量の資本が投入され、生活環境やインフラの改善により、農民の主体的地位は守られている。しかし、人々の生活水準は徐々に向上しており、農村地区の産業は経済発展のニーズを満たすための転換を求められている。まず、現代化が必要である。次に、農村地区の産業発展を支援し、経済的な繁栄と、雇用機会を増やすことが求められる。最後に、特色ある産業を発展させるべきである。農村産業の発展においては、複数の異なる生産組織が産業システムを形成するような産業統合、そして、大規模産業の発展が鍵となる。産業統合の前提には生産の多様性が挙げられる。

農村には特色ある農業、畜産業、サービス業に加え、文化産業や観光産業も存在し、これらが一体となって発展の基礎を形成している。農村エコツーリズムは観光業を産業として発展させるだけでなく、他の産業と共に発展させることもできる。まず、中国国外の研究者たちは、多くの学問分野を統合させた研究により学際的研究を実現した。これは、理論と実践の両面で指導的な意義を持つ。多くの研究者は環境問題を第一とし、農村において

は環境が最重要であると考えている。

一般的に、欧米や日本ではエコツーリズムの開発は比較的進んでおり、筆者は情報整理を通じて、環境と文化がエコツーリズム発展の基盤であることを見出した。また、農村エコツーリズムは、経済成長や人文科学、環境保護を促進する役割も果たす。中国では、エコツーリズムの始まりは比較的遅かったものの、改革開放以降の急速な経済発展、都市に住む人々のめまぐるしい仕事ペースや、大きなプレッシャー、都市部における深刻な環境汚染などの理由により、農村エコツーリズムは旅行者から人気を博すようになった。関連する問題は学界からも注目を集め、より多くの視点から研究されるようになっており、具体的な実践と理論的な研究の両方が順調な発展を遂げている。

## 第4章　農村エコツーリズムの関連政策

### 4.1　発展経緯

中国の農村エコツーリズムは、自然発生的なものから秩序だったものへ、そして点から面への発展パターンを経てきた（周2019)。農村エコツーリズムという用語は当初の国家政策文書では直接使われていなかったが、農村観光とエコツーリズムの組み合わせによってこの観光形態は形成された。関連政策発表の時系列から、両者が繋がっていく過程を見出すことができる。

#### ⑴　2006以前

2006年以前、農村エコツーリズムは規模も影響力も小さく、それにまつわる政策も少なかった（舒2019)。2006年の中央政府の第十一五計画では、農村観光には高い発展可能性があると言及され、これは「三農問題」の重要な対処法であるとみなされた。同年に国家観光局が発表した「農村観光の発展促進に関する指導意見」は、農村観光のために発表された最初の指導文書であった。政策の発展過程について、李、周、韋、頼など多くの研究者は、農村エコツーリズム政策を政策依存期、政策開始期、政策探索期、政策強化期の4つの時期に分けている。研究者らのそれぞれの時期に対する表現は異なるが、その区分は主要な国家戦略や5カ年計画と関連している。

#### ⑵　初期2006-2010

1989年の農村観光協会の設立は、農村観光モデルの始まりであった(楊2016)。1995年の双休制度確立により、人々は観光活動に参加できる時間を増やすことができた。1998年の「華夏都市農村観光」、1999年の「エコツーリズム年」というそれぞれのテーマにより、多くの観光客は農村を訪れるようになった。2001年、国家観光局は「農業観光発展指導規範」において、農業観光の第一次実証地を発表した。2002年には農業観光の発展が提唱された。「農業観光実証地および産業観光実証地（試行実施）国家検査基準」が実施され、2004年には全国で203の農業観光実証地が表彰された。

この時期、中国では主に第二次産業の発展に重点が置かれていた。中国共産党中央委員会と国務院が発表した文書には農村エコツーリズムに関する表現はなく、国家観光局と農業省の政策においてのみ記録されている。この2つの文書に加え、農村エコツーリズムは農業や環境保護など他の産業に関連する政策に依存している。一般的に、この時期の政策目的は、主に国内消費需要の拡大であった（表1)。

#### ⑶　発展期2011-2015

この時期の文書には、農村エコツーリズムにより「三農問題」を解決することができると示されている。政策では「農家楽」が提唱され、主な発展方式としてレジャーが単一的に挙げられた。この時期は、農村エコツーリズム発展の初期段階に当たる。同時に、政策の実効性を高めるため、全国農村観光グループと中国観光協会農村観光分会が結成された。これらの組織は、農村エコツーリズム発展の保証を目的としており、政策による後押しが示され始めた（表2)。

#### ⑷　推進期2016-

中国の農村エコツーリズムは、政策に支えられながら急速に発展し、これらの政策も大幅に増加した。この段階では、政策発布には以下のような3つの特徴がある(表3)。

⑴　農村観光産業による貧困緩和の達成。農村エコツーリズムと農村振興戦略の組み合わせ。
⑵　転換とアップグレードの加速、質の高い発展の実現。
⑶　生態環境の是正と修復に対する注目。

### 4.2　農村現代化

国務院から第14次5カ年計画（2021-2025）の推進について農村現代化計画の通知の内容について、農業農村の現代化を実現することは現代化国家を全面的に建設する重要な任務であり、農村の全面的な発展を促進と規定した。また、以下のような規定がある。

まず、食糧などの重要農産物の供給安全を保障することを最優先事項とし、数量だけでなく、多様性、品質も保証し、安定した国内供給の確実性で外部環境の不確実性に対応し、国家の食糧安全の最低ラインをしっかりと守る。第二に、農村の基本的な経営制度を充実させる。農村の土地・農民の集団所有、家庭請負経営の基礎的地

表1　中国の農村エコツーリズムに関する政策

| 種類 | 日期 | 名称 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 中央一号文件 | 2006年3月14日 | 中華人民共和国国民経済と社会発展第11次5カ年計画綱要 | 農村観光の発展、レジャーの開発、科学的根拠の普及、農業などをテーマとした観光について。 |
| | 2007年1月29日 | 現代的農業の積極的発展ならびに社会主義新農村の建設推進に関する若干意見 | 園芸業、特殊動物の養殖および農村観光発展を重視する。 |
| | 2007年12月31日 | 農業インフラの効果的強化ならびに農業の発展・農民の所得増加に関する若干意見 | 非農業所得を増加させ、農村観光をさらに発展させる。 |
| | 2008年10月12日 | 中国共産党中央委員会による農村改革と農村発展にまつわる重要問題に関する重大決定 | 地域に応じて特殊産業と農村観光を発展させる。 |
| | 2008年12月31日 | 2009年農業の安定的発展と農民の持続的収入増加の促進に関する若干意見 | 農業サービスシステムを強化させ、エコツーリズムを発展させる。 |
| | 2009年12月31日 | 都市と農村の一体化取り組みを強化し、農業と農村の発展の基礎をさらに強化することに関する若干意見（2010年中央一号文件） | 農村観光、森林観光、農村サービスを積極的に発展させ、農村における雇用を拡大する。 |
| | 2007年03月16日 | 中国における農村観光の発展を強力に推進することに関する国家観光局と農業部の通達 | 全文 |
| その他文書 | 2007年03月19日 | サービス業の発展を加速することに関する国務院の若干意見 | 農民の収入を増加させるために、農村観光とその他の特殊産業を精力的に発展させる。 |
| | 2009年12月01日 | 観光業の発展加速に関する国務院の意見 | 農村観光の実務者の育成強化。中央政府の投資による中西部地域における農村観光のインフラ建設を重点的に支援する。 |
| | 2009年12月31日 | 中国共産党中央委員会および国務院の「都市と農村の一体化発展への取り組みを強化し、農業・農村発展の基礎をさらに強化することに関する若干意見」 | 農村における人々の生活向上を加速し、公共施設の整備における都市と農村の格差を縮小する。 |

出典：『中国国務院政策文書』より作成

表2　中国の農村エコツーリズムに関する政策

| 種類 | 日期 | 名称 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 規則類 | 2011年3月14日 | 中華人民共和国国民経済と社会発展第十二次国家経済社会発展五カ年計画綱要 | 特色農業、観光などの優位産業を発展させる。<br>観光業の特色化発展と観光製品の多様化発展。 |
| | 2012年12月01日 | 国務院による十二五サービス業発展の通知 | 中西部地区と少数民族地区の観光業の発展を加速させる。 |
| 中央一号文件 | 2012年1月31日 | 農業科学技術革新の推進と農産物供給保障能力増強に関する若干意見 | 森林観光、竹藤などの林産業を発展させる。 |
| | 2012年12月31日 | 現代農業の発展を加速させ、農村の発展活力を強化することに関する若干意見 | 農業支援保護制度の健全化、農村公共サービスメカニズムの改善。 |
| | 2015年2月1日 | 改革・革新の強化農業現代化建設に関する若干意見 | 貧困地域における村全体の移民移転、農村観光による貧困扶助などのプロジェクトの実施。 |
| その他 | 2014年05月16日 | 国務院弁公庁による農村居住環境の改善に関する指導意見 | 農村の居住環境を逐次改善する。 |
| | 2014年08月21日 | 国務院による観光業改革発展の促進に関する若干意見 | 農村観光の貧困扶助を強化する。 |
| | 2014年11月03日 | 国家発展改革委員会、国家観光局、環境保護部による農村観光の実施に関する、観光貧困扶助活動の通知 | 全文。 |
| | 2015年4月25日 | 国務院による生態文明建設の推進を推進に関する意見 | 生態環境を保護するを前提として、農村エコツーリズムの発展を加速させる。 |
| | 2015年11月29日 | 国務院による貧困脱却の難関に関する決定 | 貧困地区特有の自然人文資源を整理する。 |
| | 2015年12月30日 | 国務院弁公庁による農村一二三次産業の融合発展に関する指導意見 | 農村総合情報化サービスプラットフォームの構築、関連施設を完備する。 |

出典：『中国国務院政策文書』より作成

表 3　中国の農村エコツーリズムに関する政策

| 種類 | 日期 | 名称 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 規則類 | 2016 年 3 月 16 日 | 中華人民共和国国民経済と社会発展第十三次国家経済社会発展五カ年計画綱要 | 農業と観光・レジャー、教育・文化、健康・ウェルネスの一体化を推進し、エコツーリズムの発展を支援する。 |
| | 2016 年 12 月 07 日 | 第十三五観光業発展規則の発布に関する国務院の通達 | 農業に科学技術、人文科学などの要素を加え、農村観光地の無線ネットワーク、道路建設を行う。<br>全国エコツーリズム発展計画の実施。生態資源地区においてインフラを増設する。農村観光における貧困緩和のための環境改善を行う。農村観光業者に対する税金優遇措置を設定する。観光産業における省エネルギーと排出削減を推進する。 |
| | 2016 年 10 月 17 日 | 全国農業現代化計画（2016-2020）の発布に関する国務院の通知 | 農村の出稼ぎ労働者などが故郷に戻って起業するための計画を実施する。<br>貧しい世帯がより多くの所得を分け合えるようにするため、土地経営権共有化などに誘致する。 |
| | 2021 年 03 月 11 日 | 中華人民共和国国家経済社会発展第十四次五カ年計画及び 2035 年ビジョンの概要 | 産業チェーンの高度化、農村観光や宿泊経済などの特殊産業の拡大、サービスの質向上について。 |
| | 2016 年 11 月 23 日 | 十三五の脱貧困規則に関する通知 | 産業による貧困緩和、地域の実情に応じて農村エコツーリズムを発展させる。 |
| | 2016 年 11 月 24 日 | 国務院による十三五生態環境保護規則の通知 | 生態環境保護の強化ならびにエコツーリズムの継続について。 |
| | 2016 年 12 月 24 日 | 国務院による十三五少数民族地域発展促進に関する通知 | 国家からの観光による貧困緩和への支援を強化する。 |
| 中央一号文件 | 2015 年 12 月 31 日 | 新発展理念の実施による農業の現代化加速および全面的な小康実現に関する若干意見 | 農業と観光産業の一体化を促進する。 |
| | 2016 年 12 月 31 日 | 農業供給側の構造改革深化ならびに農業農村発展の新動力育成加速に関する若干意見 | 村集落の整備と家屋基地の整理統合によって節約された建設用地を、農村エコツーリズムの建設に利用することを許可する。 |
| | 2018 年 1 月 2 日 | 農村振興戦略の実施に関する意見 | 建設予定地の一部を観光施設建設用地として確保する。 |
| | 2019 年 1 月 3 日 | 農業と農村の発展継続ならびに「三農」問題改善に関する意見 | 農民の生活環境と農村エコツーリズムの発展結合を目的に、民衆の参加を奨励する。 |
| | 2021 年 1 月 4 日 | 農村振興による農村現代化加速の前面推進に関する意見 | 農村エコツーリズムのルートを複数開発し、関連施設を改善する。 |
| | 2022 年 1 月 4 日 | 2022 年の全面農村振興の重点的施行に関する意見 | 農産物加工、農村エコツーリズム、農村電子商取引を重点的に発展させる。 |
| その他 | 2016 年 11 月 18 日 | 国務院弁公庁による農村帰農者の起業創新支援ならびに、農村の一二三産業の融合と発展促進に関する意見 | 農村と、観光、教育、文化、医療などの産業との融合を促進する。 |
| | 2018 年 3 月 9 日 | 国務院弁公庁による全域的観光発展に対する指導意見 | 農村エコツーリズムによる貧困改善を実施し、観光開発に必要な土地を計画し、エコツーリズムと貧困削減プロジェクト用地を優先的に確保する。 |
| | 2019 年 6 月 17 日 | 国務院による農村産業振興促進に関する指導意見 | 創造的な農業を発展させ、観光と融合させる。 |
| | 2020 年 6 月 04 日 | 生態環境部弁公室、農業農村開発部弁公室、国務院貧困削減弁公室総合部による、生態振興による貧困脱却の成果定着および農村振興のさらなる推進に関する指導意見（2020-2022 年） | 生態環境管理と環境品質監視を強化し、農村観光の資源節約および環境にやさしいエコツーリズムへの転換を推進する。 |

出典：『中国国務院政策文書』より作成

位を堅持し、農村の土地請負関係を安定かつ長期にわたって一定に保ち、農民の権益を守る。小規模農家を現代農業発展の軌道に導く。第三に、農業専門化社会化サービス体系を健全化し､小規模農家の発展を支援･サービスする政策体系を構築し、小規模農家と現代農業発展の融合を実現する。第四に、農業科学技術と装備のサポートを強化する。第五に、農業の全産業チェーン開発を推進する。産業発展の法則に順応し、農業の多様な機能と農村の多様な価値を開発し、農業の栽培・育成の一環から農産物の加工・流通などの二・三産業への拡張を推進し、産業チェーンを健全化し、サプライチェーンを構築する。第六に、農村建設を推進する。農村の特色ある風貌の保護を重視し、農村インフラと基本的な公共サービスを推進する。第七に、物質と文化は両方とも、重視する。第八に、都市と農村の融合発展を推進する。県域を都市と農村の融合発展の重要な切り口とし、労働

者による農業の補完､都市による郷の連れ込みを強化し、公共資源の県域統一を推進し、都市と農村の調和発展を促進する。第九に、農業農村の持続可能な発展を促進する。農村の生態環境建設を強化し、グリーン・低炭素生産・生活様式の形成を急ぎ、資源節約・環境にやさしい持続可能な発展の道を歩む。十番目に、共同富裕を促進するのは、最も困難の任務は依然として農村にある。農村振興戦略を全面的に推進する。

### 4.3　まとめ

全体として見ると、中国における農村エコツーリズム政策は 21 世紀に入ってから発展を見せている。この 20 年余りという短い期間において、政策は常に、国家発展戦略と同じ歩調で発展してきた。国家政策は主に目標を示し、中心的要素（土地、資源、人的資本）と関連サービスへの支援を行ってきた（里 2019)。国策による支援内容も、徐々に豊富になっており、農村エコツーリズム政策は一つのシステムとなっている。

中国の学術界においては農村エコツーリズムには様々な定義があるが､「農村性」が核心とされていることについては一致している。しかし、農村性に関する概念は多少なりとも曖昧である。空間という部分では、農村エコツーリズムは農村とその周辺地域で行われることが共通している。資源面では、農村観光資源には多くの種類があるものの、観光客が興味を示す農村の社会的様相が農村エコツーリズムの資源となっている。観光活動の内容という点では、農村の生産や生活に関連するものや、景勝地での観光、レジャーといったものもある。以上の特徴をまとめると、農村エコツーリズムは農村における観光の一形態であり、自然資源や地域の風習を利用し、観光、レジャー、民俗体験などを目的として発展したものであると総括できる。

以上の政策の組み合わせからわかるように、国家は農村エコツーリズムの発展のためにマクロ的な提案を打ち出している。農村部の自治体がマクロ的な政策をどのように地域と融合させ、農民がその恩恵を受けられるような施策をどのように展開していくかは、今後の重要な課題となる。

## 第 5 章　龍勝各族自治県の現状

### 5.1　概要

龍勝各族自治県は全域が山地で、平均海抜が 700-800 メートルあり、地勢は東・北・南の三方が高く、西が低い地形を持っている。この地域は亜熱帯季節風性気候に影響を受けており、国内の河川は珠江水系窪江上流に属している（図 1 ）（図 2 ）。

2023 年 9 月時点で、龍勝各民族自治県は多くの鉱物資源を有しており、タルク、金、花崗岩など 17 種類が確認されている。また、31 種類の保護動物（キンパンサー、オオサンショウウオなど）や 12 種類の保護植物（ギンギツネ、オオサンショウウオ、イチイなど）も存在してい

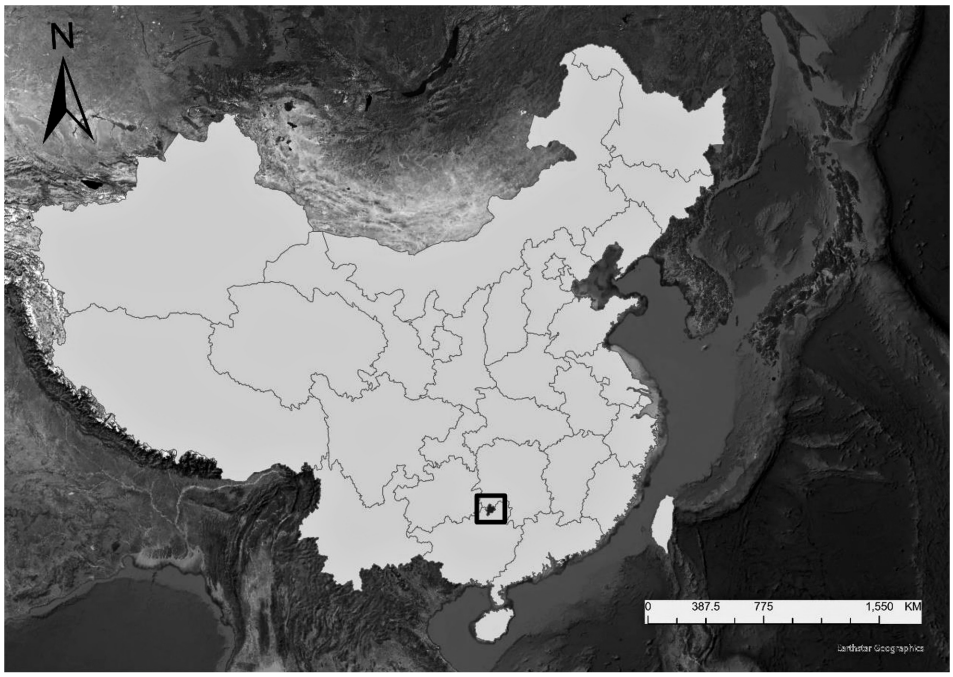



図 1　龍勝各族自治県の位置

出典：中国国家科学院より作成

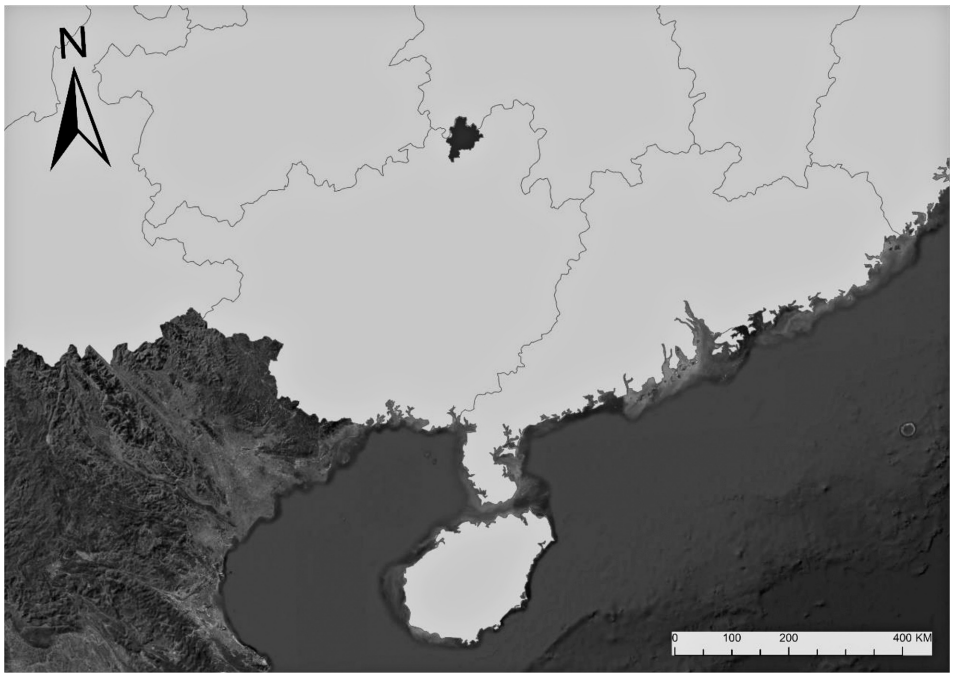



図 2　龍勝各族自治県の位置

出典：中国国家科学院より作成

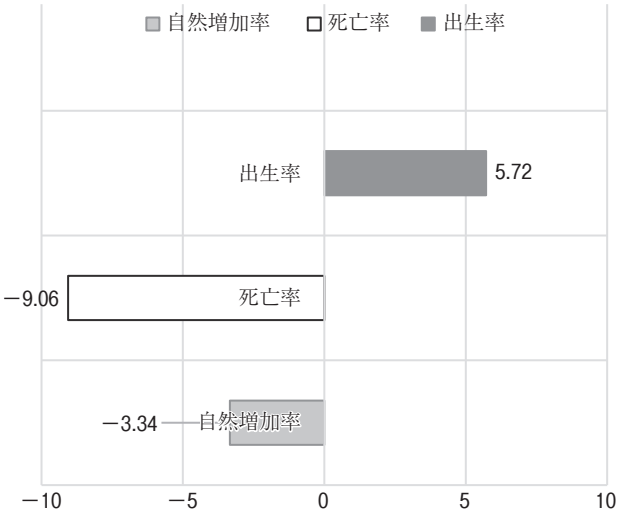



図 3　2020 年の人口動態

出典：『中国第 7 回人口センサス』より作成

る。2022 年の全県生産総額（GDP）は 703,841 万元であった。自然環境はこの地域の特徴であり、美しい景観や豊かな資源が存在している。

### 5.2　人口

2021 年の人口調査の結果、龍勝県全県の常住人口は 139,483 人で、2010 年第 6 回全国国勢調査の 154,889 人に比べて、10 年で 15,406 人減少し、9.9%減少し、年間平均成長率は－1.04%であった（図 3）。世帯当たりの人口は平均 2.76 人で、2010 年第 6 回全国国勢調査の 3.29 人より 0.53 人減少した。

表 4　2021 年の国勢調査

| | |
|---|---|
| 総人口 | 139,483 人 |
| 男 | 70,976 人 |
| 女 | 68,507 人 |
| 世帯数 | 49,409 世帯 |
| 世帯当たりの人口 | 2.76 人 |

出典：『中国第 7 回人口センサス』より作成

全県の常住人口は家族世帯 49,409 世帯、集団世帯 666 世帯、家族世帯人口は 136,406 人、集団世帯人口は 3,077 人である。世帯当たりの人口は平均 2.76 人で、2010 年第 6 回全国国勢調査の 3.29 人より 0.53 人減少した。全県の常住人口のうち、男性人口は 70,976 人で、50.8%を占め、女性の人口は 68,507 人で、49.1%を占めている。総人口性別比（女性を 100 とし、女性に対する男性の割合）は 103.60 で、2010 年第 6 回全国国勢調査の 107.44 に比べて 3.84 下がった（表 4）。

全県の常住人口のうち、漢民族人口は 29,058 人で、20.83%；各少数民族の人口は 110,405 人で 79.15%を占め、そのうちチワン族の人口は 18.6%、ミャオ族の人口は 15.6%、トン族の人口は 26.2%、ヤオ族の人口は 18.4%を占めている。2010 年第 6 回全国国勢調査と比較して、漢民族人口は 15%減少し、各少数民族の人口は 8.5%減少した（図 4）。

全県の常住人口のうち、0-14 歳の人口は 24,537 人で、

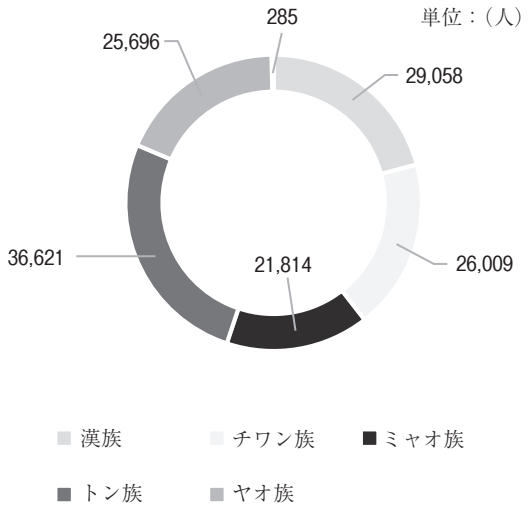



図 4　2021 年の民族構成
出典：『中国第 7 回人口センサス』より作成

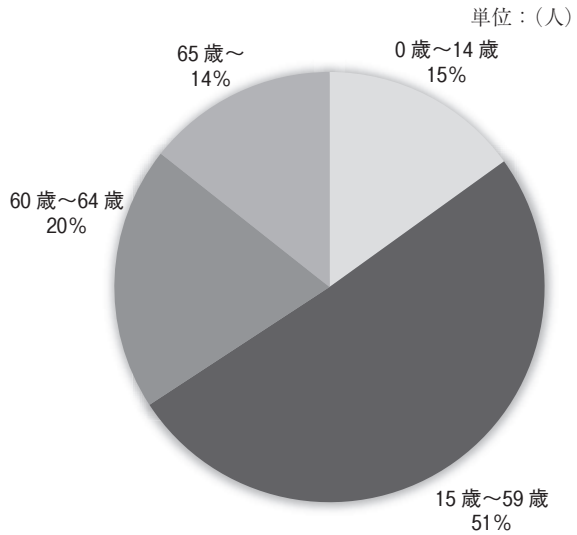



図 5　2021 年の年齢構成
出典：『中国第 7 回人口センサス』より作成

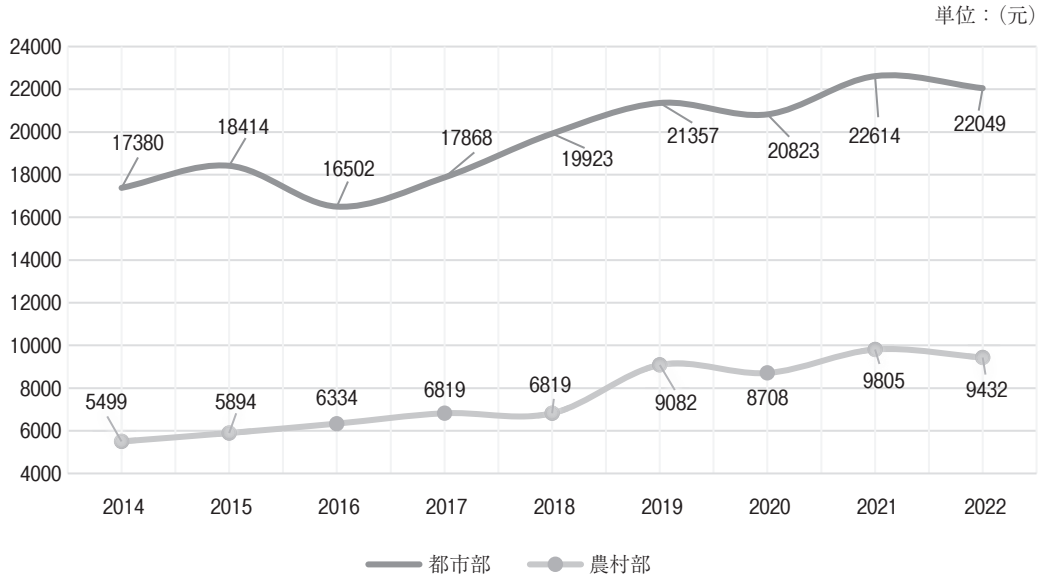



図 6　一人当たりの消費支出
出典：『桂林市統計年鑑』より作成

17.5%を占め、15-59 歳の人口は 82,590 人で、59.2%を占め、60 歳以上の人口は 32,356 人で 23.2%を占め、そのうち 65 歳以上の人口は 23,369 人で 16.7%を占めている（図 5）。

全県の常住人口のうち、町に住んでいる人口は 48,702 人で、34.9%を占め、田舎に住む人口は 90,781 人で、65%を占めている。2010 年第 6 回全国国勢調査と比較して、都市人口は 15,201 人増加し、農村人口は 30,607 人減少し、都市人口の割合は 13.2%増加した（図 6）。

### 5.3　生態系貧困扶助

生態系貧困扶助は中国が実施した貧困扶助措置であり、他の発展途上国ではこのような貧困扶助措置をとることは少ない。貧困地区の多くは生態環境が比較的脆弱な地区であり、これらの地区に対する貧困扶助の取り組みは 2 つがある。

一つは生態保護林員の貧困扶助を実施することで、中央財政は貧困人口を生態保護林員として雇い、貧困人口を貧困から救う。基本的には条件を満たす貧困家庭で 1 人を森林保護者として選び、1 人の森林保護者が年間数千元から 1 万元の賃金的収入を得ることができる。1 人の貧困家庭に森林保護者として招聘され、基本的に 1 人の貧困家庭を貧困から救うことができる。

二つ目は生態公益林補償と退耕還林貧困扶助を実施す

ることで、この貧困扶助措置は深貧困地区でも受益面が広い。龍勝県が 3.3 平方キロメートルの退耕還林指標を配置すれば、約 500 戸の貧困者の長期的な貧困脱却を推進した。

## 第 6 章　龍勝各族自治県のエコツーリズム

### 6.1　観光産業の発展

龍勝各族自治県は観光資源が豊富で、世界文化遺産である龍稜棚田、国家級森林公園、「華南第一泉」と呼ばれる温泉、そして観光中心都市に最も近く、国家級自然保護区に指定されている花坪原始森林保護区などが魅力的である。北緯山城、山耕文化、棚田原郷の特徴を活かし、ブランド製品の独自性を再定義することができる。龍勝各族自治県は観光と農業ブランドを結び付け戦略を実現している。農産物を統一し、全体的な農業ブランドの影響力を築くことを目指している。山耕原郷の文化を伝える良質の農産物である。

そして、山耕農産品の最良の製品基準を提案し、農産品の原始生態の特色からブランドに新しい物語を与えている。

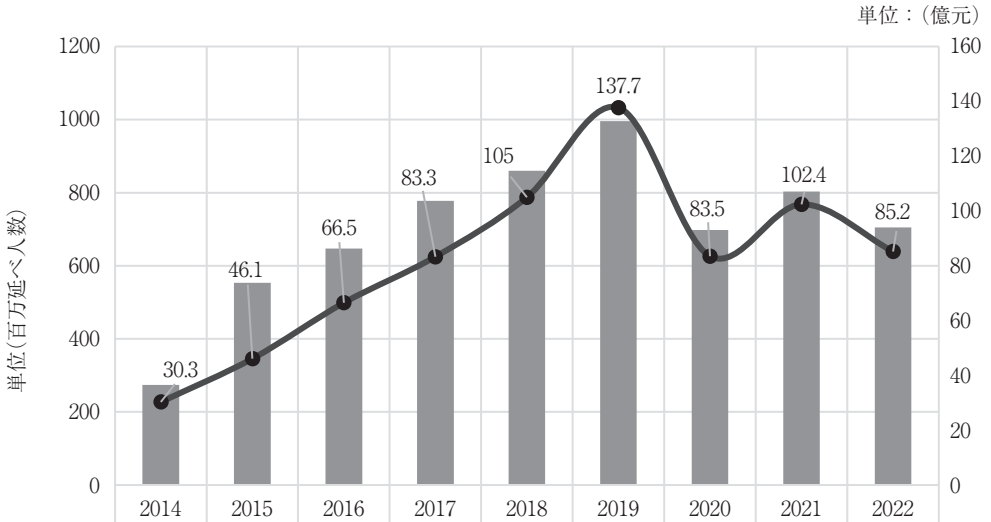
### 6.2　エコツーリズムの推進

龍勝各族自治県はここ数年来、農村振興を推進し、特にインフラ建設と環境管理の面で顕著な成果をあげた。湿地の中心村平安村では、道路を硬化させ、石畳の道路を舗装し、水道システムを整備し、汚水処理池と配管の建設を行い、汚水処理問題の 98％を解決し、汚水の無害化処理に成功した。生活ごみについては「村収鎮運県処理」と「村屯近地処理」のモデルを採用し、全天候専従保養を実施し、平安村の環境の清潔を確保した。生態保護の面では、龍勝各民族自治県は棚田の維持に特に重点を置き、毎年約 5000 万元を投入して棚田の修復を行っている。龍稜棚田のメンテナンスは大変な任務で、毎年 11 月から翌年 3 月までメンテナンス作業を行う必要がある。棚田の保護には水の層別灌漑が重要であると同時に、山の樹木を伐採して二次生態の状態を維持することは許されていない。

観光開発を通じて、村人が農家楽旅行に参加したり、小さな旅館を開設したり、農家の特色料理や観光工芸品を販売したりして、地元の人々に実際の経済的利益をもたらした。平安観光地区の入場料収入の一部も棚田の維持に使われ、棚田の維持補助を与え、農民の積極性をさらに奮い立たせた。専門家によると、農民の主体的地位の堅持は質の高い農村振興を実現する鍵であり、農村振興の主な受益者グループになり、意思決定プロセスに参加しなければ農村振興の持続可能な発展を実現できないという。現在、龍勝各民族自治県は「企業＋棚田＋農家」の発展の新たな道を切り開いた（図 7）。

#### (1)　龍脊棚田

龍脊棚田は、広義では龍勝棚田とも呼ばれ、龍脊山の棚田を指す。具体的には、龍勝県に位置する平安村の龍脊山にあり、郡から 22 キロ離れている。桂林市からも 80 キロ離れており、東経 109° 32' から 110° 14'、北緯 25° 35' から 26° 17' の範囲に広がっている。龍勝棚田は、通




| | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 観光客 | 273.5 | 553.4 | 647.3 | 777.3 | 860 | 995.4 | 698.3 | 803 | 704.6 |
| 観光収入 | 30.3 | 46.1 | 66.5 | 83.3 | 105 | 137.7 | 83.5 | 102.4 | 85.2 |

図 7　2014 年-2022 年の観光客人数と観光収入

出典：『桂林市統計年鑑』より作成

常は龍勝平安棚田とも呼ばれ、開発が進んでいる棚田の一部である。標高 300 メートルから 1100 メートルにかけて広がり、最大勾配は 50 度にも達している。棚田へのアクセスは主に盤山道路で、標高 600 メートル以上まで上昇し、棚田に到達すると標高 880 メートルになる。2018 年 4 月 19 日、中国南方の稲作棚田（広西龍勝龍勝棚田、福建尤渓連合棚田、江西崇義客家棚田、湖南新化紫鵲界棚田など）は、第五回世界重要農業文化遺産国際フォーラムで、世界重要農業文化遺産の授与を受けた。広西桂林龍脊棚田は南嶺山地に位置しており、観光スポットの役割を果していると同時に、農耕地の役割も果している。秦漢時代、棚田耕作方式は龍勝ですでに形成されていた。龍勝棚田は今から少なくとも 2300 年余りの歴史があり、棚田の原郷とも言える（図 8）。

観光地は平路でつながっており、龍脊田の中の有名な「七星伴月」が見える。「七星伴月」は龍脊田の精華で、七つの小さな山頂棚田と一つの大きな山頂棚田から成り立っている。山全体が狭い棚田で、畦畔はまるで等高線を描いているようである。もう一つの金坑棚田も龍脊棚田の上に広がっており、平安 1 号観光地から上るには 3 時間から 4 時間かかる。宿泊施設は平安よりも質素で、棚田の規模はこれまでよりも少し大きく、地元の人々の生活は淳厚である。龍勝県南東部の龍脊鎮には、より大規模な棚田群が広がっている。棚田自体にとって、最も壮観なのは大寨の金坑棚田と近くの小寨棚田である。中央テレビ 12 台のオープニングや視聴者がよく見ている龍脊棚田の宣伝写真や映画作品の多くは金坑棚田から撮影されている。平安寨の七星伴月もまた美しいスポットである。これらは一般的に昔から言われてきた龍脊棚田である。入口は通常、平安村、大寨村、龍脊村の 3 つがある。龍脊棚田には、平安北壮棚田と金坑紅瑶棚田の二つの観光地がある。これらの棚田は、大きな刀や鉈で切り取られた迫力のある地形と、微細な雕刻で引き締まった美しい景観が特徴である。山々の姿勢が異なるため、二つの棚田は互いに異なる詩的で画的な雰囲気を演出している。北壮と紅瑶の二つの文化空間を構成し、絶妙に組み合わさり、お互いに引き立っている二つの観光地は、まるで二重の輝く壁のようである。金坑棚田は大寨村の境内に位置し、その名前は金を産出することに由来している。金坑の地形は巨大な「天坑」であり、同時に宮殿のように丸く籠に覆われた小さな盤地でもある。秦寨に足を踏み入れると、農家たちが自分で橋を架け、宴会に参加する。生産活動が続き、家を建てる際には寨子の人々が自発的に手伝いに来てくれるなど、助け合いや物をむやみに取らない良好な民風が保たれている（図 9）。

自然景観と自然環境の保護が良好である。棚田は越城嶺大山脈の中に位置し、四方が高山に囲まれ、道路がまだ通じていないため、経済的性質は主に自給自足である。龍勝最高峰の福平包（標高 1916 メートル）は小さな寨屋の後ろに位置し、標高 1500 メートル以上では未だに原生林が広がっている。文化的価値の角度から見れば、光に照らされ、雲の影に翻弄される棚田に抱かれた場所には、吊り上げられた木楼がある。その景観は延々と続き、山々の歌が絶え間なく響き渡り、異なる風習や香り高い水酒が存在する。これらはすべて、高山、森林、雲海と共に、龍脊棚田の深い文化的な魅力を構成している。

特徴的な製品について、龍勝四宝には茶葉、唐辛子、水酒、香糯がある。清朝の時に貢物だった龍脊茶葉や、龍脊香糯が醸成した甘くて美味しい水酒、強烈で独特な香りが特徴の唐辛子、そして「龍勝茅台」と呼ばれる龍脊水酒がある。

### ⑵　大寨村

この小さな山村は以前、貧困線を下回る暮らしに苦しんでおり、10 年以上前には一人当たりの年収がわずか 700 元以下で、生活は艱難であった。しかし、観光の波

図 8　龍脊棚田
出典：中国観光 Web サイトより作成

図 9　龍脊棚田
出典：中国観光 Web サイトより作成

図 10　大寨村

出典：人民網 Web サイトより作成

図 11　大寨村

出典：人民網 Web サイトより作成

に乗り、大寨村はまさに大きな変化を遂げ、観光の恩恵を受ける新たな村となったのである（図 10）。

この村は地理的には辺鄙で、龍勝県政府や龍脊鎮政府から遠く離れ、険しい地形が生活を困難にしていた。しかし、村の運命は旅行の登場から変わった。観光開発により、大寨村は世界中から観光客を引き寄せ、彼らの到来がこの小さな山村の運命を根本的に変えたのである。「観光を進めなければ、今でも村は貧困から抜け出せていなかったのであろう。」これは村人たちの共通の認識となった（図 11）。

観光による変革は経済的な側面で特に顕著である。農家のホテルや旅館が雨上がりのように出現し、村人たち

図 12　馬海村

出典：中国日報 Web サイトより作成

には家庭内で安定した収入を得る機会が提供された。例えば、潘徳英さんと彼女の夫は「追月楼」という農家のホテルを開業し、業績は非常に好調である。これにより、村人たちの生活水準は向上し、貧困から解放されたのである。

特に棚田観光地区の開発は大寨村の観光の成功の鍵となった。観光会社との協定により、棚田観光地区の入場料収入の一部が村人に還元され、旅行からの配当が得られた。水稲の栽培と棚田の景観を守ることで、村人たちは安定した収入源を確保した。この観光の奇跡は経済的な成果だけでなく、社会的な変化ももたらした。生活水準の向上により、家庭には冷蔵庫、洗濯機、給湯器などの家電が導入され、携帯電話、パソコン、インターネットブロードバンドの普及が進んでいる。一部の家庭では自家用車を購入し、村の建設も改善されている。

大寨村の成功体験は、貧困からの脱却だけでなく、他の貧困地域にとっても参考になる模範である。観光の発展により、かつては無名だったこの山村は貧困から繁栄への脱皮を果たし、地元の村人に新たな希望とチャンスをもたらした。これは旅行、貧困脱却、コミュニティの発展に関する成功事例であり、田舎の振興に有益な示唆を提供している。

### (3) 馬海村

馬海村は風景が美しく、資源が豊富であるが、長い間外部に知られていない小さな村である。民族伝統的な古村と豊富な伝統文化を持っているにもかかわらず、村は長い間その資源を文旅経済効果に変えることができなかった。村民は主に出稼ぎ労働と唐辛子、羅漢果などの栽培に頼っており、年間一人当たりの収入はわずか 1.3 万元で、人材流出が深刻である（図 12）。

この状況を変えるため、広西チワン族自治区の龍勝共富田舎建設プロジェクトがスタートし、「村共富田舎 ── すばらしい郷見」をブランドとしている。今回の試行村建設はテンセント会社、テンセント公益慈善基金会、友成企業家田舎発展基金会など多くの支持を得た。このプロジェクトは東西部の協力と社会全体の農村振興への参加を深化させる生き生きとした体現である。プロジェクトの核心目標には、共富業態建設とデジタル化ツールの推進が含まれる。共富業態の面では、プロジェクトは村民が共同でネットレッド民宿、カフェ、コンビニなどの農文旅経済業態の計画、設計、建設に参与することにより、村全体の経済発展の核心的な牽引機能を実現することを目的としている（図 13）。

共富農村建設プロジェクトは農民主体が参加する経済組織の構築、村集団、村民の利益配当メカニズムの構築にも取り組んでいる。公共番号、ビデオ番号、アプレット、WeChat ストアなどのデジタル化ツールを通じて、プロジェクトは田舎の価値の影響力の構築、田舎の産業運営と市場のドッキングを支援し、田舎の発展利益が本村に残るようにすることを目的としている（図 14）。

龍勝県は、この豊かな農村建設プロジェクトを通じて、農村振興を支援し、桂林の世界的な観光都市エコリーダーを作ろうとしている。テンセント会社、友成企業家農村発展基金会などの各パートナーは、このプロジェク

図 13　馬海村

出典：中国日報 Web サイトより作成

図 14　馬海村

出典：中国日報 Web サイトより作成

トの実施を共同で推進し、新たな運動エネルギーを注ぎ込み、共同富裕化と農村振興を支援する新たなマイルストーンを実現する。この努力は中国農村振興に有益な経験と模範を提供する。

また、龍勝農村振興プロジェクトは深セン市農村振興協力交流局、テンセント会社、テンセント公益慈善基金会、友成企業家農村発展基金会など多くの人に支持されている。この協力は粤桂協力を背景に、政府、企業、公益の三者が連動することで、共に豊かな田舎建設の新しい局面を創造する。全県の 119 の行政村をカバーして、「1＋119」の知的田舎の発展構造を形成して、デジタル技術のサポートの下の革新的な発展を通じて、田舎の産業、

図 15　馬海村

出典：中国日報 Web サイトより作成

組織、人材、文化、生態、管理などの面での発展を推進する。政府、企業、公益の三者が連動して共同創造し、財政の「小さな投入」が社会の「大きな資本」をこじらせることを実現した。深センの援助資金は 425 万元、テンセント会社とテンセント公益慈善基金は 3 千万元を投入し、友成企業家農村開発基金は共同富裕層の業態、人材育成、共同富裕化メカニズムなどの仕事を統一的に主導し、多くの人が協力して努力する構造を形成した（図 15）。

この部分は龍勝馬海村を試行モデルとし、文旅プロジェクトを手玉にして、農村振興総合モデル村、共富農村モデル村を共同で建設した。プロジェクト組織は農村振興統括組織、馬海村集団経済組織、文化整理・伝承グループなどの組織を形成･整備し、インフラ建設プロジェクトを計画・スタートさせるとともに、馬海村対外コンテンツマトリックスを構築し、微信公衆番号ビデオ番号などのデジタル化ツールの建設を含めた。

プロジェクトは第二部分で県域共富農村建設デジタルプラットフォームの建設経路を探索する。「農文旅振興の革新的推進」とデジタル現代化建設の要求を巡って、全域で村共富郷のためのデジタルツールをオンライン化し、龍勝共富田舎デジタル農文旅プラットフォームを構築した。この部分のデジタル化ツールは田舎の産業運営管理と市場のドッキングを支援することを目的としている。

この共富農村建設プロジェクトは多くの協力を得て、デジタル化ツール、共富業態建設などの面で先行模範を行い、龍勝県に実践経験を提供した。プロジェクトの目標は貧困脱却の難関突破の成果を固め、農村振興を全面的に推進し、農業農村の現代化建設を実現することである。龍勝農村の努力は広西ないし全国に東西協力を背景に農村振興と共同富裕をどのように実現するかという貴重な経験を提供する。

### 6.3　問題点

#### (1)　民俗文化流失

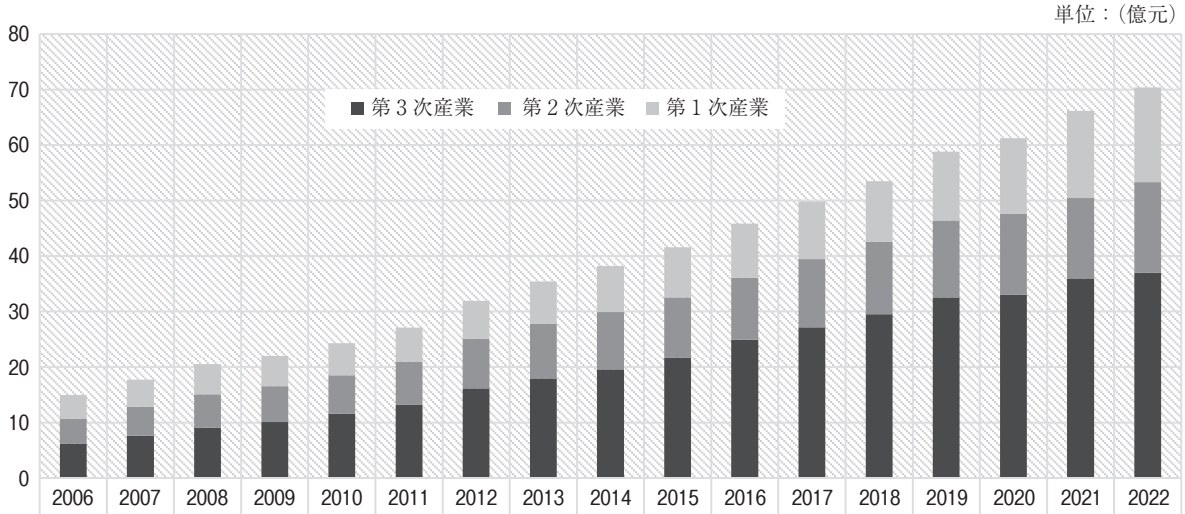
龍勝の農村経済は、発展の過程で文化の継承と地元の若者の流失現象といった困難な状況に直面している。伝統的な祭りや手作業などの伝統文化・産業は現代化の波にさらされ、その保護と継承への意識が希薄であり、継承主体も狭まり、同時に商業化のストレスが伝統文化の本来の特色を脅かしている。また、地元の若者の大量な流出により、人口減少と高齢化が進み、技術やスキルの喪失、社会構造の変化などが顕在化している。

現在、龍勝県の観光発展は、地元に経済的な機会をもたらし、特に民俗祭りがその代表となっている。しかし、観光開発の過程で、龍勝農村経済もいくつかの課題に直面している。益々狭くなる継承主体と受け入れグループ、次第に小さくなる継承方式など、伝統的な民俗文化は現代化の影響で保護と継承のジレンマに直面している。また、観光開発は伝統的な祝賀文化に肯定的かつ否定的な影響を与え、知名度向上や文化内包の変更、伝承主体の地位への影響などの問題が生じている。

#### (2)　経済発展

既存の経済発展レベルが低いことには、以下のような

単位：(億元)




| | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第１次産業 | 4.23 | 4.86 | 5.43 | 5.45 | 5.76 | 6.12 | 6.89 | 7.62 | 8.31 | 9.01 | 9.77 | 10.39 | 10.9 | 12.41 | 13.68 | 15.68 | 17.09 |
| 第２次産業 | 4.49 | 5.27 | 6.01 | 6.41 | 6.89 | 7.82 | 8.91 | 9.81 | 10.35 | 10.85 | 11.17 | 12.3 | 13.08 | 13.86 | 14.53 | 14.5 | 16.3 |
| 第３次産業 | 6.23 | 7.59 | 9.06 | 10.11 | 11.62 | 13.18 | 16.14 | 17.96 | 19.58 | 21.7 | 24.92 | 27.16 | 29.49 | 32.54 | 33.05 | 35.98 | 37 |

図 16　2006 年-2022 年の産業構成

出典：『桂林市統計年鑑』より作成

原因が挙げられる。第一に、インフラ整備が遅れており、外部からのアクセスが悪い。龍勝には良好な観光資源があるが、交通施設と観光客受入施設が不十分なことから、観光が発展しづらい。第二に、農村には大量の余剰労働力があり、これらは農村経済の発展に貢献していない。第三に、工業と商業の発展が遅れており、産業基盤が後進的である（図 16）。

### (3)　環境意識

第一に、農民の環境意識が薄く、エコツーリズムに関する知識が不足している。それと同時に、農業生産技術が後進的であるため、目先の利益ばかりを求めた粗放な農法が行われている。無計画な伐採、個人による開墾や斜面埋め立てが行われた結果、野山の自然が破壊されている。さらに、農薬や化学肥料の過剰使用もあり、水質汚染や、土壌への負荷といった問題に繋がっている。

第二に、政府のエコツーリズムに対する理解不足が挙げられる。政府部門の指導者の中には、エコツーリズムに対する理解が、環境保護の側面のみにとどまっている者もいる。こういった指導者は、短期的な利益と長期的な利益の選択を迫られると、短期的な経済成長のために環境を犠牲にすることを選びがちである。

第三に、観光業の発展に伴い、龍勝を訪れる観光客は年々増加する一方で、観光地では受け入れ人数を制限していない。その結果、観光地は、観光客のニーズに応えることができない。他方で、企業の省エネや排出削減に対する意識は低く、環境に悪影響をもたらす。

### (4)　エコツーリズム資源の開発と保護

まず、エコツーリズム資源の開発が不十分である。地域の長所と特徴は探求されておらず、開発は第一段階にある。開発過程では持続可能性が重視されていない。開発過程では、土木工事や、交通施設、ホテル、ロープウェイなどのインフラ建設が大規模に行われており、騒音やゴミが大量に発生し、野生動物は生息環境の変化や、住処からの移動を強いられている。同時に、中国には「エコツーリズム観光地」の統一的な表示や規制がないため、一部の団体は私利私欲から基準に外れた観光地を計画し、これにより資源の破壊や浪費が起こっている。

そして、龍勝のエコツーリズムでは、開発前に十分な計画がなされていなかった。資源は闇雲に利用され、マーケティングは明確でなく、観光地同質化現象は非常に深刻である。

## 6.4　発展に対する提案

### (1)　民俗文化

第一に、民俗文化に対する保護と継承の意識を高め、民俗文化内包の発掘を重視し、伝統と現代のバランスを取る必要がある。民俗文化は龍勝県の重要な伝統であり、各族人民の知恵と文化伝承の源となっている。この独自の文化を保護し、継承するために、地元住民、政府、企業は民俗文化に対する認識を高め、関連する保護政策を推進するとともに、民俗文化の歴史、物語、伝統的慣習などを収集して記録し、文化ファイルを形成する必要がある。また、文化伝承のためのトレーニングと教育を

実施し、若者が民俗文化に参加し、理解する手助けとなるのであろう。

次に、住民、政府、企業の三者協力のメカニズムを確立し、伝統文化の再構築に共同で参与する必要がある。伝統文化の継承と発展には、単一の政府主導や企業主導だけでなく、多方面からの支援と参加が求められる。三者協力の枠組みを構築し、各方面の優位性を活かすことで、伝統文化の保護と継承においてより良い結果が期待できる。

第三に、観光開発を誘導して、民俗文化により適合し、伝統文化への衝撃を和らげ、その独自性を維持することが求められる。観光開発は地元経済の発展に寄与するが、その過程で現地の伝統文化を保護し、尊重する必要がある。観光業の推進と同時に、伝統文化の純粋性を守るためには、文化保護区の設立や開発制限の導入などが有効である。観光客に対しては文化教育を強化し、地元文化に対する理解と尊重を促進することが文化保護の助けとなる。

これらの施策を浸透させるためには、龍勝農村経済の発展は観光開発において伝統文化と現代化のバランスを取ることが重要である。同時に、学際的な研究方法と現地調査を組み合わせることで、問題解決により包括的で深い理解が得られ、一定の革新性を持つ取り組みとなる。文化保護教育を強化し、住民の伝統文化への理解を深め、文化の継承を奨励する政策を実施する必要がある。同時に、地元の雇用機会向上や基盤整備、農村経済の多様化促進、若者向けのトレーニングなど、綜合的な政策が必要である。グローバル化の流れの中で、地元文化を保護し、継承するための挑戦は各地の農村経済発展に共通しているという。

### ⑵　エコロジー教育

エコに対する文化的理解の打ち立てと、エコツーリズムの推進における意識の育成が、最優先されるべきである。エコに関する意識育成の最も直接的かつ効果的な方法は、教育強化にほかならない。

第一に、放送、メディア、新聞、インターネット、農村文化活動などを通じてエコツーリズムを広め、住民のエコ意識を育成する。農民に対する技術研修を実施し、専門家を招き、科学的根拠に基づいたエコに関する講座を行う。

第二に、政府の啓発的役割が重要である。政府部門の職員や指導者に対しても、エコツーリズムに対する認識を高める必要がある。プロジェクトの承認においては、環境保護に注目するだけでなく、経済発展にも焦点を当てると同時に、資源の持続可能性にも注意を払うべきである。

第三に、企業行動を規範化させる。一方では、従業員の環境意識の育成を強化し、省エネ・排出削減、低炭素、環境にやさしい生産の概念を浸透させる。他方で、環境保護規則への違反、廃水・廃ガス・その他廃棄物の過剰排出、関連企業への環境破壊に対して、健全な懲戒メカニズムを確立し、処罰を行うようにする。

### ⑶　政策支援

エコツーリズムとエコに対する文化的理解に対しては良好な政策支援と指導が必要であり、健全な規律メカニズムと環境破壊の取り締まり強化も不可欠である。これら両者は同時に考慮されなくてはならない。省エネと排出削減について良好な業績を残した企業に対しては、減税・免税、財政補助などの政策支援を行う。政策指導と財政補助を通じて、より多くの人々がエコツーリズムに投資するよう、誘致・奨励する。

### ⑷　バランスの取れた開発と保護

エコツーリズム発展の過程においては、資源の開発と保護を両立させる必要がある。これは持続可能な発展の原則に沿うものであり、エコに対する文化的理解の精神にも合致する。資源開発においては短期的な経済的利益と引き換えに環境を犠牲にしてはならない。人間と自然の協調的な発展の達成を基本的な目標とする。

開発プロセスによって、観光地の環境保護能力が決定される。龍勝地区では、森林、水、鉱物、棚田の保護を強化する必要がある。棚田の開発については、一方では農耕文化の原型を保持して伝統的な農耕人文観光資源を保持できるようにし、他方では植生保護を強化し、独自の良好な生態環境を保護する。

### ⑸　観光による貧困緩和の継続

貧困村落における主要交通路の建設、水利灌漑事業、危険家屋の再建などを優先し、自主生産能力を高める。例えば、コストを考慮した上で、トイレ、エコ歩道、駐車場などを増設する。同時に、インフラ建設においては、環境に優しい建材を選ぶようにする。エコツーリズムは地域のエコ産業の発展を牽引するものであり、龍勝の特色ある生態資源を利用し、観光による貧困緩和を実施する。労働力の技術レベルを向上させ、余剰労働力の移転を指導する。

## 終わりに

中国の農村エコツーリズムの発展には、政府の農村現代化推進政策が大きく寄与している。農業や農村の発展において、技術の導入、基本的な公共サービスの拡充、新型農業経営主体の支援など幅広い取り組みが行われている。これにより、農民の生活水準向上や地域の経済発

展が期待される。一方で、現代農業の発展が十分ではなく、都市との経済格差が存置されており、農村の環境問題や高齢化、労働力流出に伴う課題が浮き彫りになっている。これらの課題に対処するためには、農業の規模化の推進や組織、サービスの改善が必要とされている。龍勝エコツーリズムでは、農村振興を積極的に進め、特にインフラ建設と環境管理の分野で成果を上げている。湿地の整備や棚田の修復、生態保護などの取り組みが地元の環境を守りながら経済的な利益を生み出しており、観光開発を通じて、地元の人々にも実際の経済的な利益をもたらしている。しかし、龍勝の農村経済は文化の継承と若者の流出に直面している。伝統文化や祭りが現代化の影響を受け、商業化のストレスがかかっている。地元の若者の大量流出は、人口減少や高齢化、技術の喪失などの問題を引き起こしている。

このような課題に対処するためには、文化保護教育の強化や伝統文化への理解を深める政策が必要である。同時に、地元の雇用機会の向上や基盤整備、農村経済の多様化促進、若者向けのトレーニングなどが求められる。また、龍勝の成功事例として挙げられる大寨村は、観光によって経済的な変革を達成し、貧困からの脱却を果たした。これらの取り組みは、地域の特性を活かしながら、持続可能な発展を目指している光景が広がっている。最後に、龍勝の農村エコツーリズムの発展は、伝統文化と現代化のバランスを取ることが鍵となる。地元の協力と持続可能な政策が、文化の保護と経済の発展を両立させる鍵といえる。

## 研究の課題と展望

本稿では、中国の農村エコツーリズムとその関連政策をまとめ、龍勝県を例として実例分析を行った。しかし、研究上の欠点もある。筆者は現地調査を行うことができなかったために、本稿では龍勝地域のエコツーリズムについて評価する際、おおむね参考文献の見識に従っており、自身による考察は十分とは言えない。また、経済や観光に関連するデータならびに比較対象についても欠如しており、龍勝県に関する基礎情報が十分まとめ切れていない。エコツーリズム観光地に関する具体的な内容についても参考資料が不足しており、より深く掘り下げることができなかった。

それと同時に、政策の類型化、現地調査、実態に基づいた考察などを今後進めていく必要がある。

## 【引用文献】


日本語：

孟　浩宇 (2023)：中国におけるエコツーリズムの現状 ── 内モンゴルバヤンノール市を事例として、北海学園大学

小林　駿 (2023)：ホエールウォッチング船の観察記録から見た北海道オホーツク海沿岸および根室海峡における鯨類の出現パターン、日本セトロジー研究、33

橋本　千絵 (2023)：ウガンダ・カリンズ森林保護区における霊長類と森林の保護，および地域社会との共働の推進 ── 特定非営利活動法人カリンズ森林プロジェクト ──、自然保護助成基金助成成果報告書、32

上條　隆志 (2023)：伊豆諸島の自然の持続的利用に関するシンポジウム開催 ── 伊豆諸島植生研究グループ ──、自然保護助成基金助成成果報告書、32

麻生　憲一 (2023)：Community-based Rural Tourismand Entrepreneurship: A Microeconomic Approach、日本観光学会誌、61

呂　帥 (2018)：大都市近郊における農村観光の発展とルーラリティの関係、日本地理学会発表要旨集

海宝　慎太郎 (2017)：社会・経済条件を考慮したエコツーリズム推進自治体の特徴抽出、環境情報科学論文集、31：65-69

中岡　裕章 (2016)：大規模観光地におけるエコツーリズム推進の効果と課題 ── 富士北麓地域の事例、富士学研究、12(3) 13-18

三部　和哉 (2015)：エコツーリズムガイドの実態とエコツーリズムガイドに関する問題対策の実施状況、都市計画報告集、14(1)：7-12

小坂　勝昭 (2010)：上海、杭州、烏鎮の上水道事情と観光 ── 中国における「持続可能」なツーリズムの模索、総合観光研究、9：59-65

丸山　直樹 (1998)：北部内蒙古一帯におけるエコツアーの実験的試み一草原生態系の保護と地域住民の生活の向上を目指して、ワイルドライフ・フォーラム、3(4)：195-204

中国語：

龔　佳 (2023)：山間部県域における伝統的な村落観光開発の潜在力評価及び発展戦略の研究──竜勝各族自治県を例として、桂林理工大学

王　楚君 (2022)：農村振興を背景とした民族地区の農村観光発展に関する研究、大理大学

郝　亜鑫 (2022)：ハニ棚田の生態的奇跡[J]、雲嶺先鋒、(01)：58

邵　乃麟 (2022)：ハニ棚田稲-魚-野菜総合栽培技術[J](05)：18-19

馬　蕊 (2022)：普遍的価値を際立たせるハニ棚田の世界遺産文化景観コミュニティに基づく保護探索への参加[J]、昆明理工大学学報（社会科学版)、22(02)：147-154

鮑　青青 (2021)：中国南方稲作棚田農業文化遺産地の文化景観遺伝子特徴 ── 広西省龍勝龍脊棚田を例として[J]、社会科学家、(10)：74-79

田　卓 (2021)：龍脊棚田の典型的な斜面表層土壌水分の空間変異特徴[J]、西南農業学報、34(10)：2197-2203

馬　湫翔 (2020)：観光視点から見る竜勝各族自治県の観光貧困扶助開発研究、貴州民族大学

韦　绍兰 (2019)：住民の感知に基づく広西龍勝県の観光貧困扶助効果に関する研究、中国集団経済、15：3-5

魏　后凱 (2019)：中国農村改革の基本的な脈絡、経験と展望、中国農村経済

韓　俊 (2019)：新中国 70 年農業農村の発展と制度の変遷、新三農

中国社会科学院農村発展研究所 (2019)：中国農村現代化と経済モデルチェンジは発展の無力、中国社会科学出版社

朱　冬亮 (2019)：貧困の本質：貧困扶助実践に基づく思考、国務院発展研究センター

羅　兰（2019）：貴州省少数民族貧困地区における生態系貧困扶助研究、貴州財経大学
唐　静（2017）：農村観光のグリーン発展に関する検討、環境保護、45（Z1）：62–64
馬　勇（2017）：グリーン発展を背景とした農村観光生態効率の中核的価値と向上策[J]、観光学誌、31（09）：1–3
王　方捷（2016）：観光開発を背景にした壮族「三月三」の変遷と再構築──広西龍勝各族自治県を例として、広西師範大学
王　维艳（2013）：西部地区における農村観光のグリーン発展を実現するための経路探索[J]、経済問題探索、（01）：89–93
王　超（2013）：民族地区の観光貧困扶助メカニズムの選択と業績評価[D]、西南財経大学

**ネット資料**：（2024 年 1 月 30 日確認）
中国観光 Web サイト（2023）：http://www.ctnews.com.cn/xcly/m/content/2023-07/04/content_144727.html
人民網 Web サイト（2023）：http://travel.people.com.cn/n1/2019/1224/c422585-31520489.html
中国日報 Web サイト（2023）：https://gx.chinadaily.com.cn/a/202009/03.html